

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東区東桜2丁目 計画	階数	地上14F
建設地	名古屋市東区東桜二丁目1712番, 1713番1, 1713番2	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	65 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年7月21日
敷地面積	290 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	232 m <sup>2</sup>	確認日	2021年7月22日
延床面積	2,712 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>= BEE0.5</b> ★★☆☆☆</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★ B:★★ C:★</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 2.1</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 2.7</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.5</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 1.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 2.8</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.5</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.5</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア=2.1</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	落ち着いた雰囲気の色彩と都会的なスタイリッシュな外観とし、地域に馴染むデザインとした	
その他		
Q1 室内環境	開口部のガラスをペアガラスとし、窓から逃げる熱エネルギーをおさえ、暖房負荷を軽減し、より良い室内環境とした	Q2 サービス性能 内装は防汚性の高い建材を採用した
Q3 室外環境(敷地内)	周辺の街並みや景観を考慮した外観デザインとした	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境 利用者の為の適切な量の自転車置き場を確保した

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)東区東桜2丁目 計画

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.6	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.075	
2. 自然共生				1.0
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.028125	

### 結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2	
2. 自然共生	評価点 = 1.0	
3. 循環型社会	評価点 = 2.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。